


作品介绍

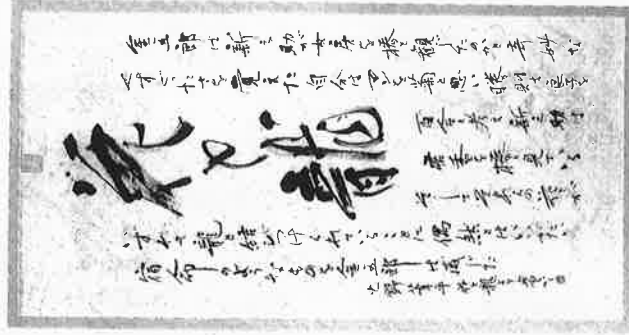
①「リリー・フロンキー」日本のみなさんでよろならより「男はつらいよ」シリーズ。会場入口を飾った大作。栗さんのイラストもリリーさんの快筆を得て著書から引用した。②火野葦平「花と龍」。中国漢王朝時の一八八〇年に作られた龍紋入りの画仙紙を復元した。沖中仕のゴソノ歌を描いた作品との二枚組。③松本清張「点と線」。時刻表の正確さと緊張感を養うため数書体を使用。文字は一字一字、辞書で確認した。④葉室麟「鯛の記」。市松樓様の画仙紙に固めの筆でよどみなく描き、主人公の深さを強調した。書展最終日に葉室さんの訃報が伝えられた。

おはなし
おぼんき
りやオシは
文芸行



だん死かじ演

の堅苦しい国に
あ二進ト三進ト
シラフクを三と三
録やた事電水録
ハア子ト七とあり
「男はつらいよ」を演は
常ニ字風吹かす
ふ一これに演士は
多ク後者屋美清村
トトは後国民葉室
が喜まれた
演士は「男はつらいよ」
サキを無理強引する
量村トはた
ひりのおぼんき
ア子トは西ノ子
葉室麟



『北九州の文学』を書に — 山本飛雲書展

若松区在住の書道家で文学館友の会会員の山本飛雲さんによる喜善記念書展「北九州の文学を書く」が昨年十二月十六日〜二十四日、文学館で開催された。「文学と書の融合」を目指して、北九州ゆかりの作家二十九人の代表作三十九点をしたためた書道界でもまれな試みは好評で、一二六七



北橋市長に「花と龍」を解説する飛雲さん(左)

人が足を運んだ。飛雲さんは昨年二月、趣旨を文学館に伝え了解を得ると、作家の代表作をリストアップ。若松図書館に通って六月までかけて読みこなし、山場を抜き出してデッサンを重ねた。紙を選び、筆も使い分けての作品群に、複数の書家による展覧会と勘違いした来館者も多かったという。飛雲さんは「作家の個性を引き立たせようという狙いが伝わった」と喜ぶ。「多くの方に見ていただき、やつてよかったという気持ちでいっぱい。文学の力を書で伝えることができると実感した。岸下俊作、劉峯吉、みづかみかずら物故作家の遺

北九州市立文学館では、友の会会員による企画展が今年も開かれます。一月六日(土)〜十四日(日)は書道家の橋村雅楽さん代表の光草書道会による「第四十回光草書道展 古事記を書く」が開催。日本文学の源流に位置する「古事記」をテーマにした作品展です。三月一日(木)〜四月八日(日)には、俳人の岸原道行さんが主宰する「喜善 二百三記念展」を開催。回誌の歩みとその活動成果などを展示します。

族も訪れ、装いを施された肉親の文章に見入っていた。個展には、文学館の存在を広めたいとの願いも込めたといい、「本当によい仕事をしている文学館なのに場所も知らない市民は多い。今回の個展で身近に感じられるようになった方も多いのでは」。その一方で「駐車場を作るなど、市民がより足を運びやすい環境を市は整えてほしい」と会員としての注文も忘れなかった。

③

文学と書道切符展
は八場林を破亡舞會
行へ橋宿層線は三番亦ム
から出も電氣時計は時前
そきしに、おが、十時
トホは、合ふよと中電言た
だが三番線は電車また
は、こがた空四ホム
に去り東側隣。平二見
つた、おは、四番線、五番
線、遠距離列車。發着
ホ、た、現、今、十五番線
は、列車が待て、つくり
習、十三番線、四番線、那
が、列車は、い、れ、この
ホ、い、十五番線、列車、が
見、た、た、た、た
お、は、五、博、多、行、場、景、
あ、た、や、視、た、
安、田、女、二、子、教、た、
飛雲 雅楽
千一 齋

④

左三郎の前に
買ふれお日記は
「鯛」記とある
鯛とば？
左三郎が新
林谷はにりよした
夏か言とのあはは
と、鯛、の、事、を、す、
と、に、秋、の、氣、配、の、送、
夏、録、れ、を、と、長、も、
か、の、う、り、化、鶴、を、た、
聞、く、を、書、す、
字、が、も、春、を、日、向、
幾、分、と、書、き、身、を、
下、に、下、り、代、田、暮、ら、
意、境、合、は、龍、の、
名、は、す、た、
左三郎は恐ろ
恐ろ日記を聞か
葉室麟 鯛 執
在、中、の、

北九州市立文学館

友の会会報

第6号

平成30年1月



友の会
自主事業

朗読会「藤沢周平を読む」

市立文学館第二十五回特別企画展「生誕九十年記念 藤沢周平展」開催に併せて、文学館友の会は藤沢作品の朗読会を十一月、十二月の四日間、館内で開いた。市内で朗読活動をしている八人の方々をお願いした。初回の十一月四日は、劇団「有門正太郎プレゼンツ」主宰の有門正太郎さんが「運の尽き」を、劇団青春座OBの上西昭南さんが「隠し剣 鬼ノ爪」を披露。会員ら約百人が聴き入った。

最初に読まれた「運の尽き」は新潮文庫「驟り雨」所収の短編。女漁りに余念のない若い筆師、参次郎が米屋の一人娘に手をつける。そこへ娘の父親が現れ、「やつと婿が見つかった」と参次郎を力ずくで米屋に連れ込み、力仕事を毎日強要する。運が尽きたと見た参次郎だったが、やがて二年の月日が流れ――。

有門さんは「参次郎の気持ちや、成長と共に変わっていく様子を表現できるように努めた。藤沢作品は男性心理を美にうまく描写していて、身につまされる」とその魅力を話した。開会に先立つあいさつで後藤みな子・友の会会長は「一度読んだ作品でも、耳を澄ませると別のイメージがふつふつと湧いてくる。こういう文章があったのかと驚くこともある」と文学作品を耳で聴く楽しみを語った。

その他の朗読者の方々と作品は次の通り。

十一月二十三日＝さかね啓子さん(語り)「どんどほれ」「うしろ姿」、葉山太司さん(飛ぶ劇場)「涙い海」▽十二月三日＝平田伸介さん(劇団青春座)「驟り雨」、古田美佐代さん(劇団青春座)「虹の空」▽同九日＝山口恭子さん・野口和夫さん(演劇作業室 紅生姜)「朝の蛇」「踊る手」(伊藤和人)



「果し合い」 ©2015 時代劇専門チャンネル/スカパー！/徳住
「必死剣鳥刺し」 ©2010 「必死剣鳥刺し」製作委員会

映画と文学 「北九州市立文学館と 小倉昭和館のコラボ」

北九州市立文学館第二十五回特別企画展「生誕九〇年藤沢周平展」に協賛し、小倉昭和館では藤沢周平原作の時代劇特集を行いました。二〇一七年十一月十八日(十二月一日)通常、映画館のスクリーンでは上映されない時代劇専門チャンネル制作作品「果し合い」(監督・杉田成道、主演・仲代達夫)「遅いしあわせ」(監督・井上昭、主演・檀れい)や名作の呼び声高い「必死剣鳥刺し」(監督・平山秀幸、主演・豊川悦司)そして「隠し剣 鬼の爪」(監督・山田洋次、主演・永瀬正敏)の四本を上映し、ご好評頂きました。その前年には「司馬遼太郎展」協賛上映として司馬遼太郎原作映画を上映しましたが、近年、時代劇の映画作品は少ないのが現状です。しかし昨年、十八年ぶりに司馬遼太郎原作映画が公開されました。累計部数五百八十万部を超えるベストセラー「関ヶ原」初の映画化です。「クライマーズ・ハイ」「日本のいちばん長い日」の原田真人監督作品。石田三成を岡田准一、徳川家康を役所広司、小早川秀秋を東出昌大等豪華オールキャストで史上最大の戦い「関ヶ原」の戦いの真実を描きます。昭和館では一月六日から二六日まで「忍びの国」(原作・和田竜、監督・中村義洋、主演・大野智)との二本立てで上映致します。原作を読んでから観るか、映画を観てから読むか、皆様はどちらでしょうか。(小倉昭和館館主 樋口智巳)

おすすめの本 『あがの夕話』 鳥越碧著 講談社 一九九一年二月二日発行

作者は旧八幡市に誕生。西南女学院高等学校、同志社女子大学卒業後、商社勤務を経てフリーライターとなる。一九九〇年、尾形光琳の生涯を描いた『雁金屋草紙』で第一回時代小説大賞を受賞。その後、女性を主人公にした小説を中心に執筆を続けている。

『あがの夕話』は、豊前小倉細川藩の国察を開き、作陶に情熱を傾ける上野喜蔵尊権とその妻春蘭の出会いから別れまでの物語である。作者はあながきで、上野袖と呼ばれる深い緑袖に魅せられ、尊権と春蘭の別離の事を知り、妻なる人の哀しみに思いを馳せて想像の布を織った。史実と異なるところも多いと記している。

朝鮮の陶工尊権が文祿の役で捕虜として連れてこられ、六年目にしようやく福知山山麓の上野に陶土を捜しあて苦労を重ね、一門が根をおろしたのは慶長九年である。彼は細川忠興との出会いによつて上野焼を育てることができた。作陶に励む喜蔵(尊権の帰化名)の傍らで、可奈(春蘭の帰化名)は夫の追いかけている天地を視たい、寄り添いたいと切望し、どうして女は垣根の外に追いやられるのかと心許ない思いに揺れ動く。作者は可奈の心の變の隈々までを描写している。

時は流れ、喜蔵は細川三斎(忠興刺髪後の号)に従つて、肥後熊本の高田郷へ二人の息子を伴い旅立つこととなる。一方、可奈は一人の息子と嫁夫婦と共に上野に残るよう夫に決められる。

別れの朝、夫の形見の茶碗の木箱を抱いた可奈の心には、大伴旅人が長年連れ添った妻を偲ぶ歌「我が行きは久にはあらじ夢のわた 瀬にはならずて淵にしありこそ」が浮かんでくる。自分もこれほどに夫に愛されたかったのかと可奈は思い当たる。

別離後二人は二度と逢うことは叶わず、喜蔵は八九歳で承応三年に逝去。子孫が豊前と肥後のそれぞれの国察を幕末まで守り続けた。現在の「上野焼」と高田焼である。繊細な自然描写が可奈の心の風景と呼応している。(三村保子)

友の会会員アンケート実施結果(概要)

友の会では、「文学や文学館の活動」に関する
会員アンケートを実施しました。

【実施期間】平成29年5月16日～5月31日
【回答数】92 [回答率 48.4% (92/190)]

結果(概要)は次の通りです。

- 【問】関心のある文学の分野 (複数回答)
- ①小説 (82.0%) ②エッセイ・随筆 (73.0%)
 - ③ノンフィクション (52.8%) ④詩 (36.0%)
 - ⑤短歌 (22.5%) ⑥俳句 (37.1%) ⑦川柳・狂歌 (10.1%)
 - ⑧児童文学 (21.3%) ⑨その他(実用書、脚本など) (12.4%)
- 【問】文学に関する情報の入手方法 (複数回答)
- ①テレビ・ラジオ (39.3%)
 - ②新聞・雑誌(フリーペーパーを含む) (82.0%)
 - ③市や県などの公的機関のホームページ (11.2%)
 - ④市や県などの広報紙 (27.0%) ⑤家族・知人 (25.8%)
 - ⑥インターネット(民間のホームページ、SNSなど) (31.5%)
 - ⑦街頭広告(掲示板や看板等) (5.6%)
 - ⑧各種研修会やイベントなど (28.1%) ⑨その他 (7.9%)

【問】文学館の利用頻度

- ①利用したことがある(ほぼ毎月利用している) (15.7%)
- ②利用したことがある(2か月に1回程度) (37.1%)
- ③利用したことがある(年に1～2回程度) (42.7%)
- ④利用したことはない (4.5%)

【問】詳しく作品などを知りたい北九州ゆかりの文学者 (複数回答)

- 【上位5名】
- ①森鷗外 (32票) ②松本清張 (30票) ③葉室麟 (30票)
 - ④林芙美子 (29票) ⑤火野葦平 (29票)

【問】日頃から、子どもに文学館を利用してもらうための展示方法

- ①子どもにも分かりやすい表現や表記を用いた説明パネルなどを置く (38.3%)
- ②文字だけでなく、映像や音声を使った説明を行う (63.0%)
- ③子どもが気軽に文学に接することができるような遊びの要素を取り入れた体験型・体感型の設備を置く (43.2%)
- ④少し難しくても詳しく説明した資料を展示する (19.8%)
- ⑤その他 (8.6%)

※紙面の関係上、すべての設問やご意見等を掲載できません
でした。

今春、私は中学校での教職生活にピリオドを打った。あつという間の三十八年間だった。特に、後半の二十年あまりは管理職だったせいも、降りかかる火の粉を払うことに追われていた。その中で、私が唯一こだわってきたのは、子どもたちが文章(詩や俳句を含む)を書くようにすることだった。

初め学級担任をしていた頃は、一枚文集を毎日のように発行していた。日記や作文、時には保護者の文章や授業記録等を記載したB4一枚の文集である。一枚文集のよさは、教室に日常的に書く場が生まれることだ。そうしてできあがった文章を読むことにより、お互いを理解することにつながった。

学年主任等になってからは、個人文集の魅力にとりつかれた。個人文集は一人一人の学びの集積である。その

リレー
エッセイ

ここにしか咲かない花

梅光学院大学 江口 恵子

生徒の成長が手に取るように分かり、新たな可能性が見いだせた。

校長職を拝命すると、赴任した三つの中学校で、毎年学校文集を発行し続けた。だが、学校文集となると、自分一人の力だけで発行することはできない。教職員協力、生徒や保護者、地域の方々の理解も必要になる。そうまでして、学校文集を発行する意義があるのだろうか。約十年、思い悩んだ。

ただいつも、できあがった文集を見ると、そんな悩みは吹っ飛んでしまった。そこには、「ここにしか咲かない花」が咲き乱れていた。コブクロのヒット曲に「何も無い場所だけれど、ここにしか咲かない花がある」という出だして始まる名曲がある。まさに、そこには激しい嵐や猛吹雪の中にあつても枯れなかつた「ここにしか咲かない花」が咲き誇っていた。

たつた一言が、一生忘れられない生徒がいる。言葉には、人を動かす、すごい力がある。そんな言葉の花を咲かせるお手伝いをこれからもできたらと願う。

会員投稿

火野葦平と鶏鍋

料亭金鍋 店主 真花 宏行

私の経営する料亭金鍋は牛鍋屋からの創業です。得意料理は当然「牛鍋」ですが、当店で葦平先生が召上るのはもつばら「鶏鍋(かしまなべ)」でした。

鶏鍋は鶏がらと香味野菜をコトコトと半日煮込んで取っただ



しに塩で味付けをし、焼いたぶつ切りの鶏肉と野菜を入れ、柚子胡椒で召上って頂く鍋料理です。ところが先生のたつてのご所望で、だしに牛乳を入れたオリジナルレシピの鶏鍋をお出しいたしておりました。

当時と致しましても現在でも、これはかなり違和感があるなと思っておりましたが、最近になって同じレシピで鶏鍋を作り、板前と一緒に試食してみました。すると食べた瞬間、これは「チキンチャウダー」ではないか！と気が付きました。だしの風味とコクが増し、鶏肉のうま味が引き立ちます。鶏鍋と同じく締めで雑炊にしてみると、「クリームシチュー」ではないですか！板前一同、これは美味しい！これは新しい！と感心いたしました。

一九五三年に葦平先生は、長期に渡り欧州各国を巡られております。きつと現地で召上られた料理の中に、この新しいレシピのヒントがあつたのかも知れません。

女将がある時「先生はどうして牛鍋を召上らないのですか？」とお尋ねすると「牛鍋は、炭鉱主の食べ物だから」と言われたそうです。今思うと高名な小説家になられても、庶民と同じ立ち位置におられたのではないかと、牛鍋が嫌いだと言えずやんわりとかわされたのか、今となってはわかりません。

葦平先生とお酒の話、映画の話、女性の話(これは店主相伝のお話なので秘密です)、河童の話等々、当店にはいつも朗らかで豪快な葦平先生の思い出がたくさん詰まっています。

先生が亡くなって以来、お気に入りだつた部屋は、先生への思いを込めて「葦平の間」と呼んでいます。

